



International Lawn Tennis Club of Japan

ICの歴史

1924年、イギリスの著名なジャーナリスト、Wallis Myers氏が「テニスマンによる国際交流とより一層のテニスの発展」を目的とした集いを提唱し、「イギリス国際ローンテニスクラブIC」が誕生しました。その5年後、コシェ、ポロトラ、ラコステ、ブルニヨンという四銃士テニスプレーヤーの活躍を契機としたフランスが自国の国際ローンテニスクラブICを設立しました。国際的な広がりには1947年以降で、現在では38カ国がそれぞれのICを設立しています。日本は20番目の組織として1978年に加盟、以後活動を続け、今日に至っています。各国ICは、それぞれに認められた“STRIPE”があり、それを用いたネクタイ/スカーフを会員のシンボルとしています。



ご存知ですか？

日本のデビスカップとフェドカップの代表チームの一員であった方、ナショナルタイトルの保持者、テニス界においてその貢献が委員会によって認められた方だけに資格があります。



ICの活動内容

21世紀の世界が直面する様々な問題が話題となる今日この頃ですが、そんな時にこそスポーツを通して手を取り合い、希望を分かち合う事ができるのではないのでしょうか。世界各国ICはそれぞれの

努力を重ね、変わりゆく時代に対応しながらもクラブのモットーである「ネットを挟んだ握手、海を渡った友情」を守り実行しています。



テニスを通しての国際親善

毎年、世界各国でIC主催の親善試合が行われ、世界中のテニスプレーヤー同士の交流を深め国際親善に貢献しています。さらには、テニスプレーヤー、特に若い選手たちへのスポーツマンシップと相互理解を浸透させるべく努力をしています。ICの様々なイベント参加を通してスポーツマンシップの良いお手本を示す事だけでなく、テニスプレーヤーとして最も顕著なスポーツマンシップを発揮した選手をICとして表彰する事によって啓発促進しております。



テニス界の歴史伝承

若い選手たちに自国だけでなく世界国際テニスの歴史を知ってもらうよう努力しています。チームテニスに参加したり、往年の名選手やテニス界を支えてこられた皆様との交流を大切にテニスの伝統を守るべく活動を支援しています。



Giving Back

今、世界では、最も新しいイニシアティブとして、テニスからいろいろな恩恵を受けた者たちが、そのテニスを通して社会に貢献をしようという動きが活発化しています。世界各国のICは恵まれない子供達や障害のある子供たちを対象とするテニスプログラムの実施に力を入れています。IC Japanも一昨年の秋にはコロンバストロフィーの期間中、参加者、及び車いすテニスの先駆者である斎田悟司選手、国枝慎吾選手、山倉昭男コーチ、池ノ谷俊夫コーチ、米沢徹コーチ、沢松奈生子選手、長塚京子選手たちのご協力により将来選手を目指すジュニアプレーヤー及び、障害を持つ子供たちのためのテニスクリニックを実施することができました。



ICのこれから...

IC Japanでは、車いすテニスの発展のため 車いすを提供するプログラムや恵まれない子供達や障害のある子供を対象としたテニスクリニックの実施など、定期的に行う予定です。我がIC Japanでは、その組織を強化し、メンバーの皆様喜んでいただけるような活動をする事をめざしています。世界のICの活動に関する情報を定期的にご提供するだけでなく、日本のテニス界を代表する皆様に国際親善及び社会貢献の場に積極的にご参加/ご協力いただける場をつくり、サポートするように努力いたします。

